

令和7年度 第1回 昭島市スポーツ施設整備構想検討委員会 議事要旨

[日 時] 令和7年6月13日（金） 午後6時30分

[場 所] 昭島市役所 3階 庁議室

[出席者]

・委員

宗川敏克委員、高橋章委員、和田幸子委員、高橋靖和委員、高橋昌之委員

・事務局

永澤政策調整担当部長（企画部）、磯村生涯学習部長、

女屋行政経営担当課長（企画部）、吉村スポーツ振興課長（生涯学習部）、

岡村公共施設再編・調整担当係長（企画部行政経営担当）

・傍聴者 なし

[配布資料]

・【資料1】昭島市スポーツ施設整備構想検討委員会要綱

・【資料2】昭島市スポーツ施設整備構想検討委員会委員

・【資料3】今後の進め方について

・【資料4】昭島市スポーツ施設整備構想（第1章・第2章）

・【参考資料】スポーツ施設位置図

[議事要旨]

1 開会

2 正副委員長の選任

委員長に宗川敏克委員、副委員長に高橋章委員を選任

3 議題

（1）今後の進め方について

事務局より、「【資料3】今後の進め方について」を示し、会議の公開、会議録（議事要旨）の作成及び公表、構想の構成、今後のスケジュールについて説明。

今後のスケジュールを説明する中で、第2回、第3回の会議については、後日、日程調整のうえ、決定することを確認。

（2）スポーツ施設整備構想について

第1章「構想の策定にあたって」及び第2章「スポーツ施設の現状と課題」について、事務局より「【資料4】昭島市スポーツ施設整備構想（第1章・第2章）」に沿って説明し、その後、各章ごとに各委員より質疑。

〈質疑応答〉◆は委員、○は事務局の発言要旨

第1章 構想の策定にあたって

◆近年、開発等により人口流入がある状況だが、本市の人口はいつ時点の数値を使用しているのか。以前に計画策定されたものから数値を使用しているのか確認したい。【高橋（靖）委員】

○人口の将来展望（年齢3区分別人口）の表で表現しているように、緑色点線左側（令和元年から令和7年）については住民基本台帳の各年の5月1日現在の人口を使用しており、緑色点線右側（令和13年から令和42年）については、総合戦略の人口ビジョンにおける推計値を使用している。

なお、推計値については、当時は開発等の内容は含まれていないため、極端に人口が減少するような数値となっているが、実際とは乖離があり、もう少し緩やかに人口が減少していく想定である。【事務局】

◆本委員会の考え方や方向性について伺いたい。現状のスポーツ施設に対して、新たに施設を追加したり、改修などの方向性を具体的に決めていくことが目的なのか、それともスポーツ施設整備の考え方をまとめていくことが目的なのかを示して欲しい。【副委員長】

○各施設の状況や予算、それぞれの施設が課題としているものを浮き彫りにし、それらを踏まえながら、本市の将来的な構想として、大きな視点で作り上げていくのが本委員会の目的である。

【事務局】

◆構想の考え方として、スポーツ施設の利用者は市民だけでなく、市外の方もいるため、他市の住民からも利用したいと思っていただけるような魅力的な施設にするという考えもあると思うが、資料を見た限りでは、人口推移が減っているならば、規模を縮小して良いという感じてしまった。構想の考え方はそういった方向性なのか。【高橋（靖）委員】

○そういった考えではない。施設の利用者については、現状、市民と市外の方で区分けしていないため、実績は出せない状況である。また、本市のスポーツ施設は老朽化しており、市外の方の利用は少ないと考えている。今後の施設の在り方として、市民に喜ばれ、市外の方にも本市の公共施設を利用したいと思ってもらえる施設が大事であると考えており、そのためには長期的に今の状況を見ながら課題を浮き彫りにし、市としても構想を作り上げていくことが必要であると考える。

人口ビジョンから見えてくる課題としては、高齢者の方々が増えてくるため、スポーツ施設においても、高齢者への配慮が必要になるということが統計から見えてくる。これまでのように入口が増加し、施設もどんどん作れば良いという状況ではないため、市の状況や利用者を想定して施設をどうしていくのかといったことを本構想で作っていきたい。【事務局】

◆こういった場に参加して何かを作りたいといつても、市側は予算がないと断る前提で来る印象がある。意見をいただければ、我々が予算を取ってくるといった気概が欲しい。【高橋（靖）委員】

○そういった前提の考えはありませんが、現実問題として予算を確保することが容易では無い状況である。例として、総合スポーツセンターを新たに1つ作ろうとした場合、10年前と比べると物価や人件費が高騰しており、費用は以前の倍程度かかる。仮に当時20億円で建設できたものが、現在では40億円になるため、先ほどお示しした公共施設整備等資金積立基金の金額を見て貰ってもわかるとおり、いっぺんに40億円を充ててしまうと残額はわずかになってしまう。公共施設はスポーツ施設だけではないため、学校の施設も建設から50年を経過しているものもあるため、全

体のバランスを考えながら整備をしていく必要がある。【事務局】

◆学校の話が出たが、一部の学校でプールの授業を学校で行わず、民間で実施していると聞いた。民間で補えない分は総合スポーツセンターでも実施していくなんて話も聞いたが、総合スポーツセンターのプールは低学年も利用可能な施設なのか。【高橋（靖）委員】

○水深調節台を設置することで水深を調整することが可能。水深調節台は40cmの高さがあり、水深を1m程度に調整ができるところから、夏休みの時期などには水深調節台を設置してご利用いただいている。【事務局】

◆民間施設と総合スポーツセンターの2か所で実施可能なことは分かったが、市内の小学生がプール授業を受けるのに施設数は足りているのか。【高橋（靖）委員】

○総合スポーツセンターについては、東京都より移管されており、そうした関係から市民料金も市外の方の料金も同一でやっているのが現状である。ただ、それにより市外の方からも利用いただいている状況ではありますが、市の施設として市税を投入して整備しているため、要望に応えていくのも、利用いただくのも市民が優先であると考えている。現場としては、施設がどこも老朽化しており、施設も少なく、足りていない状況に感じている。新たな施設としてアキシマエンシスに体育館があるが、登録した団体が利用した場合は無料なこともあります、予約は常にいっぱいである。みほり体育館、総合スポーツセンターの体育館についても昨年度に新たに空調を整備し、夏場でも快適にスポーツができる環境を増やしている状況であり、決して人口が減っていくからスペックを低くするとかといった話ではなく、市民を最優先に市民の需要を満たしながら施設を維持していく考えである。余剰がある部分については、高橋（靖）委員の意見にもあるように市外の方にもご利用いただくのが良いと考える。

また、学校のプールの授業について、市民プールも然りだが、夏場は熱中症の危険等もあり、思ったように授業を実施できていないのが現状である。安全性を考えながら、これから学校のプールについて検討することが必要であり、一つの手法として屋内プールの利用などが試行されている。【事務局】

◆市民と市外の方で料金を分けられない理由に東京都から移管されたことが影響しているのか。【高橋（靖）委員】

○今回の構想では市民や市外の方で料金を分けるといった視点も入れられると考えている。現状の総合スポーツセンターについては、料金に差がつけられる施設とは言い切れないが、施設としての整備をしっかり行った際には、市税を投入して整備した施設となるため、受益者負担に応じた料金設定の考え方非常に大切な視点であると理解しており、検討して参ります。【事務局】

◆今ある施設の維持管理は大事なことで、これは整備構想で詳細に検討していくと思いますが、先ほど高橋（靖）委員がおっしゃった魅力的な施設の件については、活用が期待できる敷地として旧拝島公園プール跡地、残堀川調節池の2か所あるため、こういったところの活用を検討することも整備構想で検討していく範囲と捉えてよいのか。【委員長】

○拝島公園プール跡地含む周辺については、市の西側に公共施設が少ないという声が市民からも非常に多く、人口ビジョンでもお示したとおり、地域区分の5区域の中でも人口が多いエリアであるため、バランスを考えていく中では、今後、スポーツ施設として考えていくべきと考える。

先ほど話にあがったようにプールの建設も検討の1つであり、2か所では充足していないため、3か所目をどうするかといった際には、検討の可能性があると考えている。

残堀川調節池については、10年前に策定した基本計画があり、今年度改定作業を進めている。改定に合わせ、以前の計画を踏襲しながら、建設にかかる予算経費、施設整備の方向性、建設後の運営方針を新たに示すほか、財源などについても国や東京都に問い合わせながら幅広く検討を行っている。活用が期待できる敷地については、構想のまとめの中でも触れていきたいと考えている。【事務局】

◆旧拝島公園プール跡地の管理はどこの部署か。雑草が生い茂り、子ども達が遊ぼうにも遊べない状況であるため、ボール遊び等ができるよう管理をお願いしたい。【高橋（靖）委員】

○草刈りも年4回程度実施しているが、昨今の異常気象等の影響で草の伸びが早く、草刈りをしてもすぐに伸びてしまうため、市も苦慮している状況である。【事務局】

◆人口の話に戻って申し訳ないが、今後、人口が非常に少なくなると、各年代の人口も減ることになり、想像はしたくないが、旧拝島第四小学校やつつじが丘南小学校のように学校を統合することも考えられ、あと10年、20年すると体育館も寿命により、建替えの時期になってくる。スポーツの側面から見ても、野球、サッカーやラグビーといった大人数でやる競技は、今やひとつの中学校で成り立たない時代が到来し、市内のA小学校とB小学校、A中学校とB中学校を一緒にチームにしたり、昭島市でも近隣市町村と統合したクラブもある。現在、野球やサッカーが凄く盛んな状況であっても、30年後には別の競技が出てくるなど、様々な想定をしていく中で私たちはこの場で議論していく必要があると感じた。【副委員長】

◆昭島市の子どもの数は東と西で大きく異なり、西側では教室が足りてない一方で東側では一年に一クラスしかない状況であり、市の人口が減っているから規模を縮小して良いとは言えない。今後の学校をどうするのかという問題があり、ここだけで決めて良い話ではないと考える。つつじが丘南小学校をアキシマエンシスに建替えたが、学校を存続していれば大助かりだったのに、市の施策がまずかったのか、近隣住民は大迷惑している。【高橋（靖）委員】

◆もう一つの課題として、中学校の部活も民間や地域に移管していくという話もある。学校でクラブ活動をしなくなった場合には、体育館やグラウンドが使われなくなることも想定されるため、広い視点でスポーツ施設のあり方を考えていく必要があると考える。【副委員長】

◆これまでの議論で将来人口の推移についての話が出ましたが、昭島市全体をひとくくりにするのではなく、五地域に分けて地域特性を鑑みながら、今後、細かな検討をしていく必要がある。

一点確認したいのが、計画の位置付けについてである。最上位の計画として基本計画があり、その下に公共施設等総合管理計画や個別施設計画等の既に策定されている計画があり、それと整合性が図られるような構想を策定するという認識で良いか。

○そのとおりである。【事務局】

第2章 スポーツ施設の現状と課題

◆本構想の中で競技にクリケットが入っていない。昭島市はクリケットの街と謳っているのに、

クリケットの文字が載っていないのは少し残念な気持ちである。【高橋（靖）委員】

○記載している競技については、国が示すガイドラインに基づいて作成しており、クリケット以外にも記載されていない競技はあり、すべては拾いきれない。【事務局】

◆当時中神の方にコートを作る話もあり、それが残堀川調節池なのかもしれないが、コートを作れないにしても、練習場所を作ることは出来ないのか。【高橋（靖）委員】

○クリケットのコートは100mのコートが2面分必要となるため、現実的に難しい。【事務局】

◆昭島でクリケットというのは聞いたことあるが、実際に活動しているところを見たことは無い。市内のどのような場所で活動しているのか。【副委員長】

○昭和公園の陸上競技場、つつじが丘小学校、押島第二小学校などで活動されている。【事務局】

○クリケットについては、昭島市で始めたというよりは、昭島観光まちづくり協会とクリケット協会が一緒になって進めたものと理解している。【事務局】

◆昭島観光まちづくり協会を通じて市からの支援が入っているのではないか。【高橋（靖）委員】

○クリケットに対して支援を行っている訳ではない。スポーツ協会にクリケットは加入しているのか。【事務局】

◆スポーツ協会には加入していない。【副委員長】

◆コートや練習場所がないので加入に至っていない。パブリックコメントを求める前には何とか構想に盛り込んでほしい。現在のスポーツ人口としては非常に少ないかもしれないが、世界的に見ると競技人口は世界一であると聞いている。小学生の年代でクリケットに関わる機会があっても、コートや練習場所が無いことによって競技を始められないのが現状である。【高橋（靖）委員】

◆サッカーコート2面分を確保できる場所が無いことには作れない。専用で作るのは他の競技でも難しいことなので、この場で明確にお答えするのは難しいところかと思う。クリケットの件は事務局に引き取っていただき、他に質問等はありますでしょうか。【委員長】

◆スポーツ施設の利用状況の表について、ちょうど新型コロナウィルス感染症の時期に被っているように思う。令和元年に始まり、令和2、3年は相当な自粛があったように思うが、その割に数値は横並びに感じている。【副委員長】

○アキシマエンシス（体育館）なんかは、新型コロナウィルス感染症の影響は数値でもわかりやすいように感じる。【事務局】

◆第1章、第2章とご議論いただきましたが、以上で本日の議題は終了とする。【委員長】

4 その他

次回以降の委員会開始時刻について、18:00から開始することで各委員より了承を得る。

5 閉会